

インシデントは誰にでも起こりうる

インシデントとは、医療現場での治療やケアの過程で、患者さんの健康や安全に影響を及ぼす可能性のある出来事やミスのことを指します。実際に患者さんが危害を受けた場合だけでなく、危害が及ぶ前に気づいて防げた場合も含まれます。

2025年2月13日

01

ヒューマンエラーの普遍性

02

インシデントの多様性

03

経験による過信のリスク

04

新人のフレッシュな視点と学びの必要性

01 ヒューマンエラーの普遍性

インシデントは、経験や能力に関係なく誰にでも起こりうるものです。人間は完璧ではないため、疲労やストレス、集中力の欠如などによってミスを犯すことがあります。これは医療現場においても例外ではありません。

例)

現場で、疲れているときに患者の名前を読み間違えたり、部位の左右を間違えたりするかもしれません。

02 インシデントの多様性

インシデントにはさまざまな種類があります。例えば、スタッフ間のコミュニケーションエラーなど、単純なミスから複雑な問題まで、さまざまな場面でインシデントが発生します。これらは経験に関係なく起こり得るものであり、どんな状況でも注意が必要です。

例)

新しいシステムの導入時にミスが起きることがあるかもしれません。

03 経験による過信のリスク

経験豊富なスタッフでも、長年の経験に基づく「慣れ」や「過信」がインシデントのリスクを高めることがあります。過去に成功していた方法が必ずしも現在の状況に適応するとは限りません。経験があるからといって、全ての状況で完璧に対応できるわけではないということを理解することが大切です。

例)

ベテランのスタッフが、いつもの手順を少し変えただけで大丈夫だと思ってしまうことがあるかもしれません。

04 新人のフレッシュな視点と学びの必要性

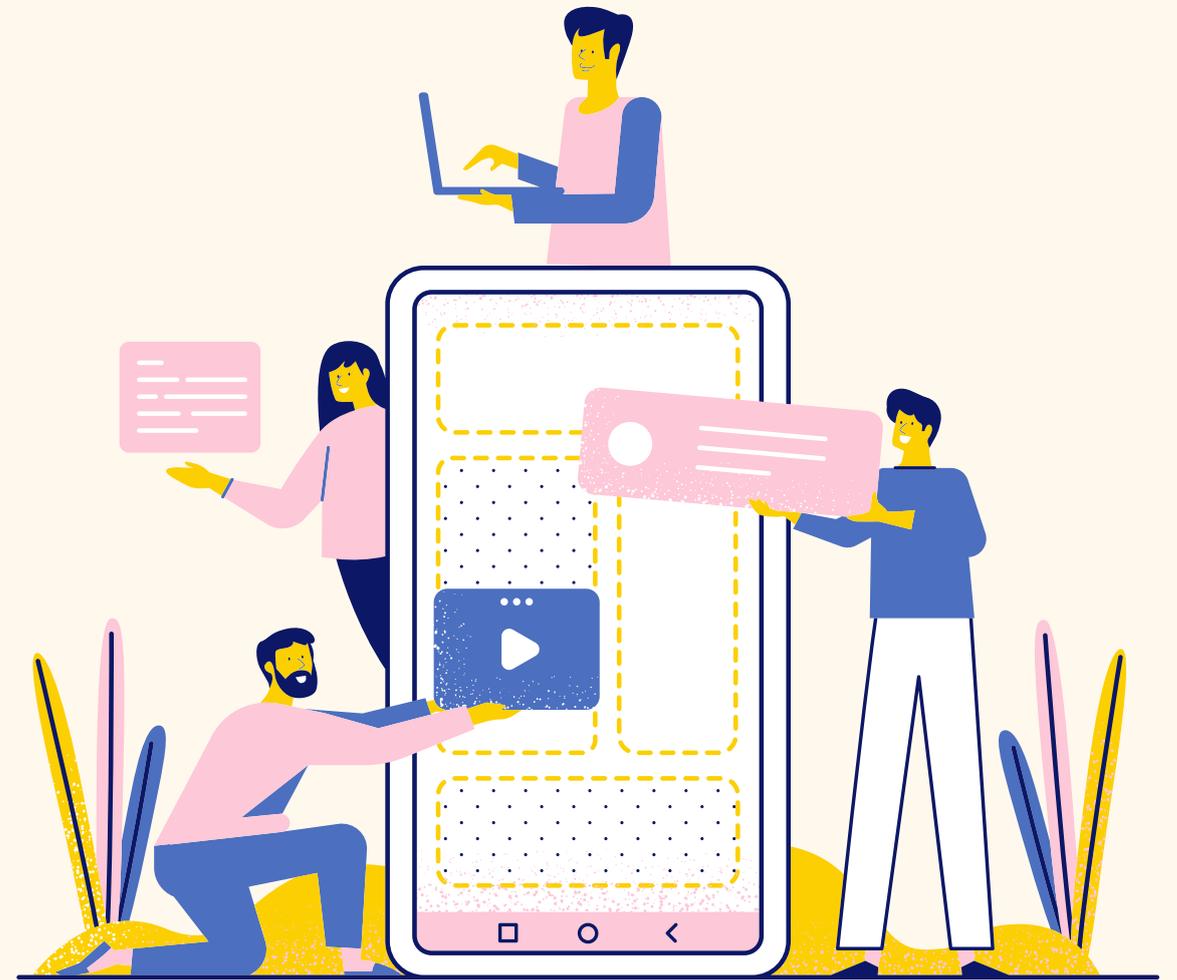
経験が浅い新人スタッフは、新しい視点を持ち込むことができますが、同時に知識やスキルの不足によりミスを犯しやすいというリスクもあります。新人にとっては、学び続ける姿勢と、経験を積む中で安全に対する意識を高めることが非常に重要です。

例)

新しい環境に慣れるまで、どんなにシンプルなことでも確認を怠らないようにすることが大切です。

チームワークとコミュニケーションの重要性

インシデントを防ぐためには、チーム全体の協力とコミュニケーションが欠かせません。経験の多さや少なさに関係なく、全てのスタッフが意見を出し合い、互いにサポートし合うことで、インシデントの発生リスクを低減することができます。チーム全員が同じ目標に向かって働くことで、より安全な医療環境を築くことが可能になります。





知識・技術・マインドの 三位一体で築く安全な医療環境

インシデントを防ぐためには、知識や技術だけでなく、日々の業務に取り組む際のマインドが非常に重要です。注意深さ、学びの姿勢、チームワーク、フィードバックの受け入れなどのマインドを持つことが、医療現場の安全性を大きく左右します。安全な医療環境を築くためには、知識と技術に加えて、マインドを組み合わせたバランスの取れたアプローチが求められます。



統括リハビリテーション技術部では

インシデントが起きてしまった際にレポートを作成し、それを全てのスタッフと共有しています。これにより、学び合い、改善するための取り組みを続けています。学生の皆さんも、未来の医療現場での安全を守るために、今から知識を深め、技術を磨き、そして正しいマインドを持つことを大切にしています。

患者本位で安全な医療の提供へ

